

「高年大学」で楽しい講義

ことしも名古屋市高年大学鯉城学園で講義した。この3月に発行された30周年記念誌には「学ぶ門には友来る」と。そんな歴史を感じさせる教室だ。講義は「生徒さん」が起立して始まり、起立して終わる。当日配布資料の最初から。

◇自己紹介にかえて

ことしも「高年大学専門講座」でお話しできるのを喜んでいきます。「話」に入る前に、簡単に自己紹介しておきます。名古屋で生まれ、信州松本や大阪で大学・大学院時代を過ごしました。名古屋で就職して35年勤め、一昨年3月末に定年退職しました。専門は財政学・地方財政論であり、『公共事業と財政―戦後日本の検証』『災後の新聞』などを出版しています。



10 数年前から「まちづくり」に関心を持ち、大学での教育研究を通じて『名古屋の観光力―歴史・文化・まちづくりからのまなざし』を風媒社から共同で出版しました。観光まちづくりの調査・研究を進め、その成果を「名古屋市観光戦略ビジョン」に反映させてきました。昨年8月、西三河のケーブルテレビで特別番組「戦後70年 未来へ生きる私たちへ」でコメンテーターをつとめています。

◇話の概要とポイント

私の話は「名古屋のまちづくりと都市魅力」がテーマです。都市魅力について、観光まちづくりの視点などから、点検して評価していきます。ご承知のように名古屋の魅力や観光について、たいへん厳しい評価が公表され話題になっています。国内主要8都市で、名古屋は「行きたくない」街ナンバーワン。こんな「評価」を皆さんはどう考えられますか。ここでは写真や映像なども使いながら、名古屋の魅力と「観光力」を考えていきます。まず「観光まちづくり」や都市魅力について概説し、名古屋の現状を評価、名古屋の「観光まちづくり」を振り返り、私なりに課題を提起します。

自己紹介のなかで、いつも紹介するのが「愚痴聞き地蔵さん」である。もう、長くお付き合いさせてもらっている。このお地蔵さんを知っていますかと聞くと、ほとんど知らないと。名駅近くに行くと、お地蔵さんの前でいつも愚痴をこぼしていると話すと、なんだか教室の雰囲気が変わってくる。まちを歩いて偶然知ったという、まち歩きに興味を感じてもらえるようだ。お地蔵さんに感謝。最後は桃巖寺・名古屋大仏でしめる。



いま話題の「行きたくない街」名古屋の評価について、配布資料をもとに説明した。皆さんは、どう考え評価するかと問いかけた。私のコメントに対して厳しい批判が出るかと心配したが、意外に静か。とにかく、たまっていた「得意のダジャレ」を連発した。楽しく、気分よく講義を終えることができた。やはり、講義は楽しくなくては。

(2016年12月11日)